

平成 26 年度(2014 年度)松原漁場におけるセタシジミ肥満度の経月変化

磯田 能年・石崎 大介

1. 目的

セタシジミの肥満度は産卵量の指標となっており、年度や漁場毎に変動があることから、餌料条件等の漁場環境を反映していると考えられる。しかし、その経月変化は十分に明らかになっていないため、肥満度が減少し、回復する過程を昨年度から引き続き調査した。

2. 方法

調査は従来から北湖主要漁場で産卵期前に実施している肥満度調査において肥満度の高い漁場である彦根市松原地先に 4 定点（水深 4m（資源概況調査の松原地点）、5m、10m および 15m）を設定し、2014 年 4 月 18 日から 2015 年 3 月 19 日にかけて概ね月 1 回の間隔で行った（2 月は欠測）。サンプルは滋賀水試で開発した噴流式定量桁網（開口幅 8cm、採取厚 3cm、網目合 1cm）を用いて採取した。採取したサンプルの中からセタシジミを選別し、殻長 18mm 以上の個体から各地点最大 12 個体をサンプルとした。産卵しないよう 18℃以下の環境で 1 晩畜養して砂を吐かせた後、全重量を測定した。解剖して軟体部をステンレスカップ内に移し、100℃で 24 時間乾燥させた後、デシケーター内で冷却し、乾燥重量を測定した。測定後、以下の式により肥満度を算出した。

$$\text{肥満度}(\%) = \text{軟体部乾重量} / \text{全重量} \times 100.$$

3. 結果

2014 年度の各定点における肥満度は、ピークの 5 月では松原 15m および 10m で高く、2014 年 6 月から 11 月にかけては 15m で最も肥満度が高かった。期間中、肥満度の最高値は 5.3%まで上昇し、これまでの調査結果と比較すると高い水準であった。最低値も高い水準であり、1.9%であった。引き続き肥満度の

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。

変化を把握していくとともに、肥満度の変動要因についても調査していく必要がある。

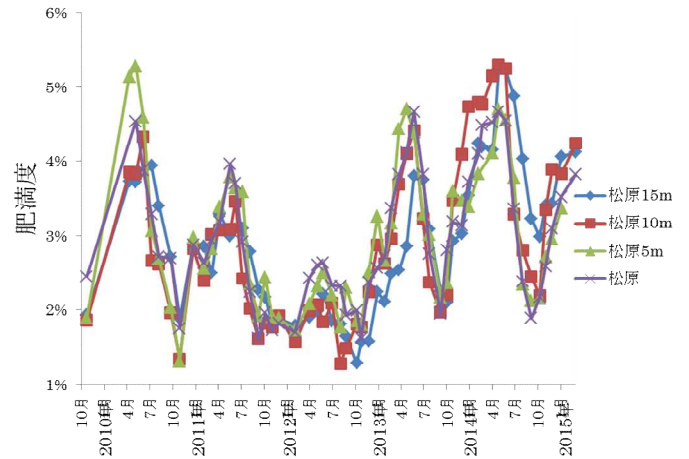


図 1 松原漁場における肥満度の経月変化